

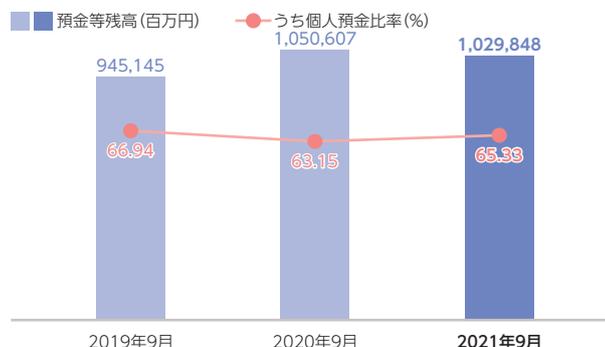


営業等の概況

当行は、地域経済の活性化に貢献していくとともに、中期経営計画の達成に向け全力で取り組んでおります。今期に入りコロナ禍の状況が落ち着いてきたことも影響し、中間決算期における預金等残高は前年同期末と比べやや減少しました。なお、今期に入ってからは、これまでの資金繰り支援から伴走型支援の局面に変化しつつあります。また、当行の主要営業基盤である高知県におきましても、地域の皆さまから高いご支持をいただいております。

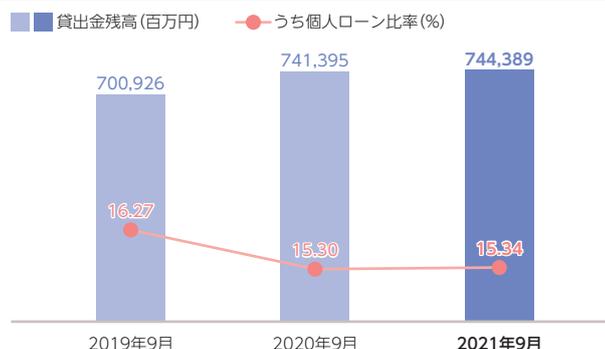
預金等(譲渡性預金含む)

地域経済の活性化をサポートする活動を展開しております。こうしたなか、社会経済活動が回復しつつあることなどから、預金等残高は前年同期末比207億円減少して1兆298億円となりました。



貸出金

コロナ禍により厳しい状況のなか、金融仲介機能を発揮して地域中小企業の資金繰り支援に真摯に取り組んでまいりました結果、貸出金残高は前年同期末比29億円増加して7,443億円となりました。

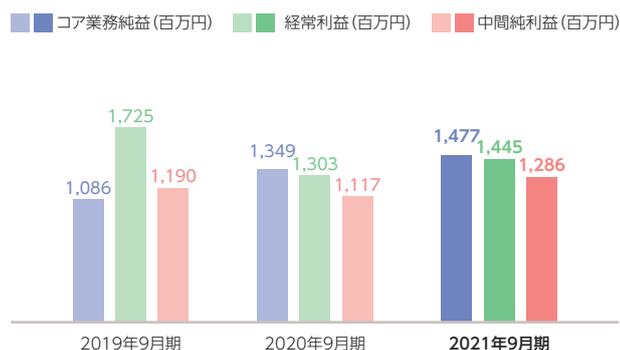


コア業務純益・経常利益・中間純利益

地域に密着した営業活動を展開するとともに、経費削減等の効率化にも注力いたしました結果、コア業務純益は14億77百万円、経常利益は14億45百万円、中間純利益は12億86百万円となりました。

〔コア業務純益〕

コア業務純益とは、資金の運用収支、手数料等の収支、外国為替や債券等の売買の損益等の利益から、債券にかかる損益と経費を差し引いて算出される利益で、「銀行の本業での業績を表す指標」といわれています。



自己資本比率

経営の健全性の重要な指標とされる自己資本比率は、前年同期末比0.17ポイント上昇して9.75%となりました。

